

## 【山梨県韮崎市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月、中央教育審議会において「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめた。この答申では、「新学習指導要領の全面实施」、「学校における働き方改革」、「GIGAスクール構想」という新しい時代の学校教育を実現していくことが必要であるとしている。その上で、ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現をめざす学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。

本市では、「令和の日本型学校教育」の構築のためにICTは必要不可欠であると考え、各学校においては、ICTを日常的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行ってきた。これまでに培われてきた1人1台端末の活用による児童生徒の主体的な学びの姿を一層推進していく。そして、1人1台端末を個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現のために最大限活用するとともに、すべての児童生徒が自らの課題意識に基づく学び方を身に付け、課題解決に向けて主体的に取り組む姿の実現を目指していく。

#### 2. GIGA第1期の総括

本市ではこれまで、1人1台の端末の配備や各クラス1台の電子黒板の設置を行い、ICTの活用を進めてきた。教職員は、韮崎市GIGA端末推進研究会やスタート&フォローアップ研修会、校内GIGAスクール研修会等の様々な研究会や研修会を通して、ICTを活用した教育活動についての学びを進めてきた。また、教育委員会と各校のICT担当者との情報交換会も多く行い、市内小中学校と市が連携して、共通意識のもとGIGAスクール構想の実現を進めてきた。その結果、児童生徒は、文房具と同じように1人1台端末を利用して学習活動を行うことができるようになってきた。令和6年度全国学力・学習状況調査の質問紙の結果では、「PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「前の学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使った」と回答した児童生徒の割合が、山梨県や全国よりも高かった。「PC・タブレットなどのICT機器の活用」に関する他の質問でも、すべてにおいて、本市の児童生徒は、山梨県や全国よりも、とても高い割合を示していた。日頃から1人1台端末を有効的に使って学習していると、児童生徒は実感している。GIGA第2期においても、市内小中学校が連携をし、ICTの活用を進めていく。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 「1人1台端末の積極的活用」

これまでも実施しているが、今後も、各学校の実態に応じた課題を解決するために、効果的なICT活用について、計画的に研修や情報交換会を位置付けるようにし、児童生徒の端末の積極的な活用につなげていく。また、端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、AIドリルアプリ、学習支援アプリ等の校内及び家庭学習での活用を一層推進する。

## (2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

各教科で育成すべき資質・能力を身に付けるために、効果的に ICT を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。そして、児童生徒が、自ら調べたり、考えをまとめたり、発表・表現したりする場面において、1人1台端末を活用し、より主体的に学習に取り組む授業づくりを進めていく。

学習支援アプリなどを用いて、他者参照・共同編集をしながら自分の考えをまとめたり、自己調整を図りながら自らの学びを進めたりすることができるようにしていく。特に「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」・「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」・「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるようにしていく。また学習だけでなく委員会活動や教育相談等にも活用し、児童生徒の学校生活を支援していく。

## (3) 「学びの保障」

日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用し、学びを止めない学習環境を整備していく。